

平成 22 年 10 月 1 日

JAバンク山形県における地域密着型金融の取組状況について (平成 21 年度)
--

JAバンク山形県(山形県下JAと農林中央金庫山形支店)では、農業と地域社会に貢献するため、平成 19~21 年度JAバンク山形県中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでまいりました。

平成 21 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

農林中央金庫山形支店

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援 | 2 |
| 2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援 | 4 |
| 3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供 | 6 |
| 4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献 | 7 |

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援 (J Aバンク山形県の農業メインバンク機能強化への取組み)

J Aバンク山形県は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供

J Aバンク山形県は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成22年3月末時点のJ Aバンク山形県の農業関係資金残高は、60,614百万円となっています。

【資金種別別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	平成22年3月末現在
プロパー資金	40,839
農業制度資金	19,775
うち 農業近代化資金	3,992
うち その他制度資金	15,783
合 計	60,614

(注)

- 1 プロパー資金とは、J A原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- 2 農業制度資金には、地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、地方公共団体が利子補給等を行うことでJ Aバンクが低利で融資するもの、日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは の転貸資金と を対象としています。
- 3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

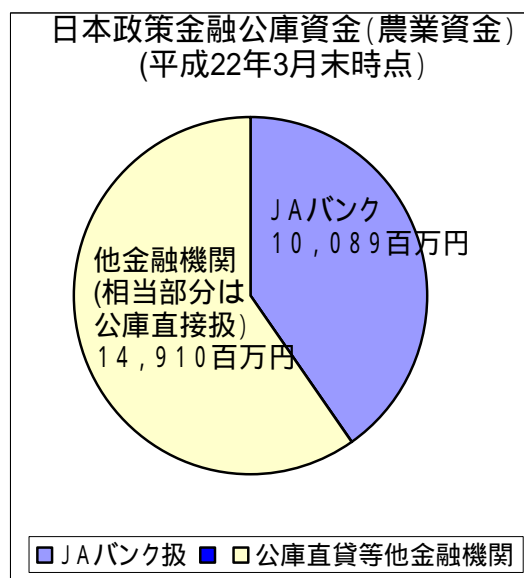
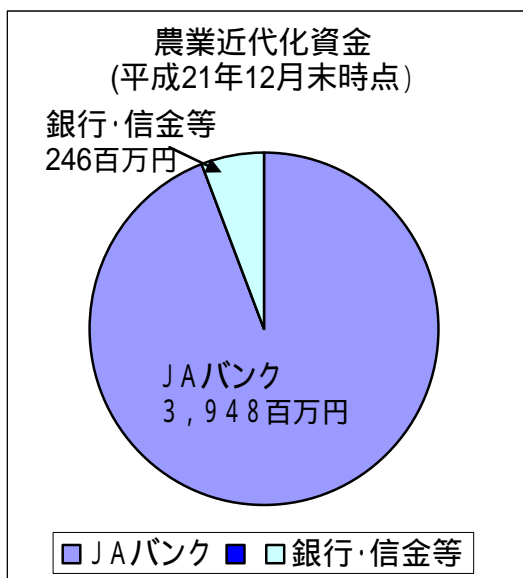
【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

種 類	平成22年3月末現在
日本政策金融公庫資金	6,249
そ の 他	1
合 計	6,250

(注)

- 1 J Aバンクでは、主にはJ Aを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンクは主要な農業関係の制度資金である，農業近代化資金の取扱いにおいてトップシェアとなっているほか，日本政策金融公庫資金(旧農林公庫資金)についても，公庫の直接扱いを除いた民間金融機関取扱分での主要な地位を占めています。



【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

営農類型	平成22年3月末現在
穀作	18,111
野菜・園芸	3,268
果樹・樹園農業	3,345
工芸作物	38
養豚・肉牛・酪農	6,546
養鶏・鶏卵	71
養蚕	4
その他農業	27,793
農業関連団体等	1,438
合計	60,614

(注)

- 1 農業関係の貸出金とは，農業者，農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や，農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
- 2 「その他農業」には，複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者，農業サービス業，農業所得が従となる農業者等が含まれています。
- 3 「農業関連団体等」には，JAや全農とその子会社等が含まれています。

(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備

J Aバンク山形県では、地域の農業者との関係を強化・振興するための体制整備に取り組んでいます。

J Aでは、本支店の農業融資担当者が、営農・経済担当がお聞きした情報も含めて把握して、農業融資に関する訪問・提案活動を実施しています。また、県内17 J Aの本店には23人の「担い手金融リーダー」が設置され、支店の農業融資対応に関する活動をサポートしています。

農林中金山形支店では、J Aにおける農業融資機能の強化に向けた取組をサポート（農業者からの相談のバックアップ、J Aとの協調融資、J Aの資金コーディネート力強化に向けた研修・会議の実施など）しています。

(3) J A内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJ Aをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、J A内事業間連携を強化しています。

具体的取組事例
山形県農協中央会が、J Aの金融・営農・経済事業職員を対象に「担い手への事業対応研修会」を開催し、その中でJ Aバンクは農業資金に関する知識を習得するための研修を実施しました。
J A山形おきたまでは、T A C（経済渉外担当）職員を対象に農業資金に関する知識習得と金融部門との農業者ニーズの共有化に向けた研修を実施しました。
J A庄内たがわでは、A C Tチーム（経済渉外担当）職員と金融部門等との情報交換会議を実施し、農業者から寄せられる要望等に対しJ Aあげて対応する体制を構築しています。

2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

J Aバンク山形県は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 新規就農者の支援

J Aバンク山形県では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】（単位：件，百万円）

	平成21年度 実行件数	平成21年度 実行金額	平成22年3月末 残高
就農支援資金転貸	91	89	582

(2) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク山形県では、農業者へのアドバイスの実施等により、経営不振農家の経営改善に積極的に取り組んでいます。また、(財)やまがた農業支援センター内に設置されている山形県農業再生委員会と協調し、経営不振となった農業者からの相談対応等を行っています。

【平成21年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】 (単位：先数)

		経営改善支援取組先 ()				ランクアップ率 = ÷	事業計画策定率 = ÷
		のうち 期末に債務者区分がランクアップした先数 ()	のうち 期末に債務者区分が変化しなかった先数 ()	のうち 再生計画を策定した先数 ()			
正常先		177	10	165	1	5.6%	0.6%
要注意先	うちその他 要注意先	530	168	325	9	31.7%	1.7%
	うち要管理 先	115	26	77	5	22.6%	4.3%
破綻懸念先		549	76	468	17	13.8%	3.1%
実質破綻先		297	41	255	18	13.8%	6.1%
破綻先		33	9	24	0	27.3%	0.0%
小計(~) の計)		1,524	320	1,149	49	21.0%	3.2%
合計		1,701	330	1,314	50	19.4%	2.9%

(注)

- 1 債務者区分は平成21年4月時点で整理しました。
- 2 経営改善支援取組先は、個人ローン、住宅ローンのみの先を含みません。
- 3 には、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しています。
なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者は には含めていませんが、
に含めていません。
- 4 期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理しています。
- 5 期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めていません。
- 6 には、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載しています。

3 経営の将来性を見極める融資手法を始め，担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク山形県では，担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 負債整理資金の提供による償還負担の軽減支援

J Aバンク山形県では，農業者の経営再建を支援するため，負債整理資金を取り扱っております。平成21年度の実績は以下のとおりです。

【平成21年度の農業融資への活用実績】 (単位：件，百万円)

資金名	平成21年度 実行件数	平成21年度 実行金額	平成22年 3月末残高
農業負担軽減支援資金	0	0	374
畜産特別支援資金	16	358	599
その他	53	404	1,982
合計	69	762	2,955

(注)

- 1 農業負担軽減支援資金は，営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金です。平成19年度より山形県による予算措置が中断していましたが，平成22年度より取扱が再開され，J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- 2 畜特資金は，過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり，J Aなどの融資機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク山形県では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 被災者への支援

J Aバンク山形県では、自然災害による被害を受けた農業者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

(単位 件, 百万円)

取組事例	J A名	取組内容	取扱件数	実行金額
生産資材高騰対策資金の対応	J Aバンク山形県	山形県下J Aでは、20年度からの農業生産資材高騰対策として、山形県の緊急対策に呼応し、低利資金を創設し対応しました。	55	60
局地的災害に対する緊急支援資金の対応	J Aさがえ西村山	平成21年に管内の町で発生した降雹により、甚大な被害を受けた組合員に対し、低利資金の対応を行いました。	22	42
和梨の病気被害に対する再生産資金の対応	J A庄内みどり	平成21年に管内で発生した和梨の病害により、生産が激減した農家に対し、低利な再生産資金の対応を行いました。	12	22
花きの価格低下に対する再生産資金の対応	J A庄内みどり	平成21年にストック(花)の市場価格の大幅な下落が発生し、再生産が困難となった農家に対し、低利な資金対応を行いました。	17	27
合計	3 J A		106	151

(2) 地域住民の農業に対する理解促進

J Aバンク山形県は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業にかかる教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、J Aバンク山形県を通じて、県下の小学校324校へ、14,200セット配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下J Aでは小学校児童を対象に、下表のような食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【ＪＡバンク食農教育応援事業による主な活動内容】

ＪＡ名	活 動 内 容
ＪＡ山形市	エコ定期貯金を販売し、小学生等の環境教育に資する活動を支援する基金を創設しました。
ＪＡ山形	小学生を対象にアグリスクールを開講し、８回に渡って体験学習を実施しました。
ＪＡ天童市	地元食材を小学校に提供するとともに、生産者との交流による食育教育を実施しました。
ＪＡみちのく村山	小学生を対象に、スイカと野菜の栽培とスーパーでの販売体験活動を実施しました。
ＪＡ東根市	小学生を対象に、農業体験スクールを開催し、収穫体験を実施しました。 なお、その模様はＴＢＳ系「みのりの風景」でＴＶ放映されました。
ＪＡ真室川町	小学生・幼稚園児を対象に、米作り体験教室を開催し、米作りを通じ農作業体験や田んぼの生き物調査を行いました。
ＪＡ山形おきたま	小学生を対象に、アグリスクールを開講し、７回に渡って体験学習を実施しました。
ＪＡ鶴岡市	小学生を対象に、農業体験・農業施設見学による食農教育活動を実施しました。
ＪＡ庄内たがわ	神奈川県の小学校に生産者が出向き、稲作にかかる出前授業を実施しました。
ＪＡ庄内みどり	東京・横浜の小学生を対象に「田舎まるかじりツアー」を実施し、ＪＡ青年部が米倉庫の見学や収穫体験や等を通じた食農教育を行いました。
ＪＡ酒田市袖浦	小学生を対象に水田教室を開講し、体験学習を実施しました。

以 上